平成19年度 富里歴史講座

於：富里市立図書館

第2回「富里の近世」

～ 馬のふるさと富里のルーツを求めて ～

２００７・８・１１

林 田 利 之

１．原始にみる馬と人の関わり

家畜としての馬が人々と関わりを持ち始めるのはいつ頃からでしょうか。考古学的な成果を基に家畜化された馬の出現を調べてみると、多彩な土偶や土製品で知られる縄文時代においては馬の形をしたものは発見されておらず、弥生時代においても青銅器などに描かれるのは鹿などの動物であり、馬が描かれることはありません。また、これらの時代の遺跡の発掘調査で馬の骨が発見された例はなく、日本列島に馬が存在していた証拠は見つかっていません。

しかし、多くの古墳に象徴される古墳時代になると、古墳の周辺を飾り立てるように並べられた埴輪列の中に「馬形埴輪」が含まれるようになり、遺跡からも馬の骨が発見されるようになります。

千葉県下でこの時代の有名な馬の骨の発見例は佐倉市大作古墳群３１号墳からの出土例です。この古墳の周溝内には２基の土坑が伴っており、このうち１基から馬の歯と馬具が出土しました。馬具の位置関係などから推定された馬の状態は首を切断されて、土坑の中に投げ込まれたかの様な状態を示しており、古墳の被葬者に伴って殉葬されたものである可能性が考えられています。

図１　芝山古墳群から出土した埴輪類

馬具が伴っていることから考えても、人々に飼い慣らされた（家畜）動物であったことが理解され、古墳時代において馬の飼育が行われていたことが確認できるのです。

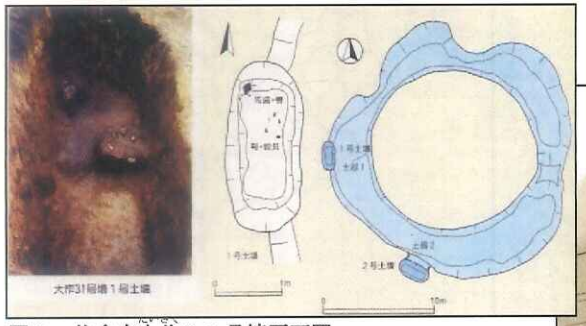

図２　佐倉市大作（おさく）３１号墳平面図

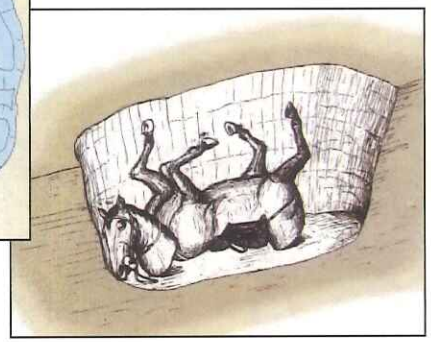

図３　大作３１号墳１号土坑から出土した馬の状態推定図

古墳時代以降の時代になると馬の存在を示す遺物の量は増加し、奈良・平安時代の集落跡である八千代市白幡前遺跡からは、土器が捨てられた土坑の底から１頭分の馬の骨が出土しています。これは「雨乞い」のマツリを行った際に利用された土坑と考えられており、「龍＝馬」という古代中国から伝わった考え方があることから、馬を殺して生贄としたものと考えられています。

２．千葉県における牧の出現

古墳時代や奈良・平安時代において人々の生活に馬が関わりを持っていたことは考古学的な調査によって発掘された馬そのものの骨や馬具、馬形をした埴輪などの遺物から窺い知ることができますが、本格的な馬の（飼育）生産がいつ頃から開始されたのかについては定かではありませんでした。しかし、『日本書紀』天智天皇７年７月条（西暦６６８）には、「**《天智天皇七年（六六八）七月》◆秋七月。高麗従越之路遣使進調。風浪高。故不得帰。以栗前王拝筑紫率。』于時近江国講武。又多置牧而放馬。**」とあり、馬を放牧したことがわかります。また、『続日本記（しょくにほんき）』文武天皇４年３月丙寅条（西暦７００）には「**令諸國定牧地放牛馬。**」とあり、牧としての土地を定めるとともに牛馬を放牧したことが書かれています。

古代の牧は、軍馬を飼育するために開かれえたものと考えられており、軍団の衰退に伴って縮小されるなどしましたが、千葉県内では千葉氏の軍馬育成のための一部の牧は継続して機能していたと考えられています。１０世紀の初め頃に成立した『延喜式』によると、下総国に属する牧として高津・大結・本島・長州・浮島が挙げられていますが、これらを現在のどこの地域に比定するかは様々な見解があり統一を見ていません。

平安時代末期の１２世紀になると、香取神宮の中核的な神官である大禰宜・大中臣氏が葛原牧と呼ばれる牧を領有していたことが古文書に記されています。この牧は現在の香取市、織幡地区から同市小野地区周辺、小野川上流域の台地上を含んだものであったと考えられています。同市綱原屋敷遺跡ではこの牧に関連すると思われる遺構が発掘調査されており、取込状の土塁が発見されています。この土塁は現状で８０ｃｍ～１ｍ程度の高さを保っており、隣接する地点には「馬洗」の小字も残されていることから牧関連の遺構である可能性が極めて高いものです。また、出土した瓦質土器や瀬戸製品は１６世紀代のものであり、１２世紀代の葛原牧の系譜が中世を通じて存在していた可能性を示しています。

図４　駒井野荒追遺跡の屋敷跡

中世においては、相模の北条氏が天正１１（西暦１５８３）年に千葉邦胤に命じて上総・下総の原野に馬牧を作らせたのが最初とされており、また、香取社の神官・分飯司（ぶんがいじ）家に伝来している「平清胤寄進状」に牧の存在を示す記述がされています。

図５　屋敷跡の推定復元図

この寄進状は平清胤が現在の駒井野の阿弥陀堂に水田１段を寄進するというものであり、14世紀中頃の駒井野の様子を伝えているものです。寄進された水田は「真草田（馬草田）」の下にあったと記されており、１４世紀代、駒井野の地に馬草を供給した馬草田が存在していたことが判明しました。駒井野では空港関連施設や、